

資料4

科学技術・学術審議会産業連携・地域支援部会
地域科学技術施策推進委員会(第6回)

H24.10.31

地域イノベーションの創出に 向けた人材の育成・確保について

- ・ARECの取組
- ・人材育成・確保における地域の現状及び直面している課題
- ・地域イノベーションを創出するための人材像
- ・現状の施策における改善点等や今後の取組の方向性

財団法人上田繊維科学振興会(AREC) 理事
信州大学繊維学部 特任教授 工学博士

岡田 基幸

【自己紹介】

1971年／ 大阪市生まれ

1994年／ 信州大学 繊維学部 精密素材工学科 卒業

1996年／ 信州大学大学院 工学系研究科 博士前期課程 修了

1997年／ 長野県上田市役所入所(企業誘致・産業振興・産学官連携業務)

1999年／ 信州大学大学院 工学系研究科 博士後期課程 修了

「研究テーマ/高分子の結晶化構造」(工学博士)

2000年／ ARECプラザの前身となる「上田地域産学官連携推進協議会」設置

2002年／ 上田市産学官連携支援施設(AREC)が信州大学繊維学部内に開設

2002年／ 財団法人長野県テクノ財団へ出向 (ARECの管理運営)

2005年／ 財団法人上田繊維科学振興会へ出向 (ARECの管理運営)

2005年／ 信州大学繊維学部 客員助教授(現在、2010年から特任教授)

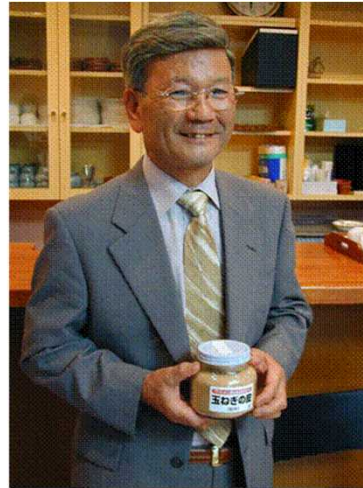
2010年／ 長野県上田市役所退職

2010年／ 財団法人上田繊維科学振興会 理事・事務局長

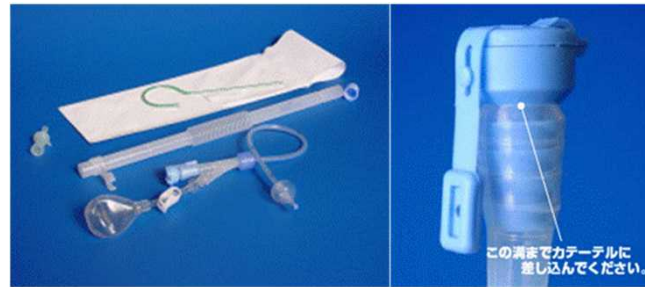
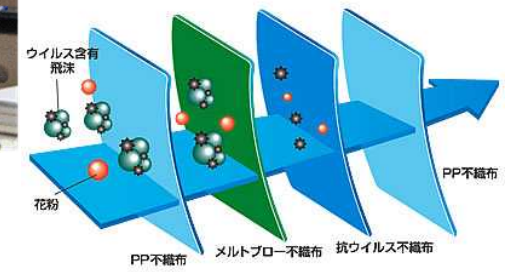
2012年4月／ 一般財団法人 浅間リサーチエクステンションセンター 専務理事(予定)



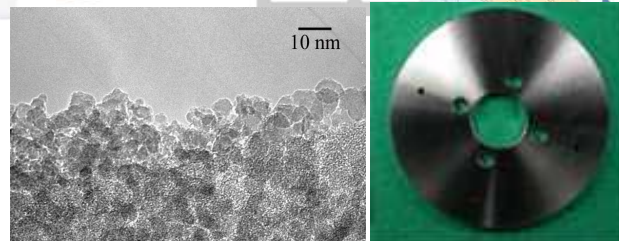
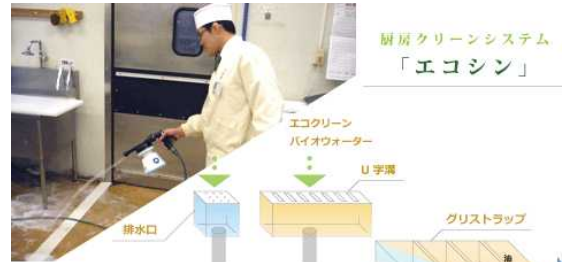
繊維と関係ない商品群



4層構造イメージ図



この溝までカテーテルに差し込んでください。

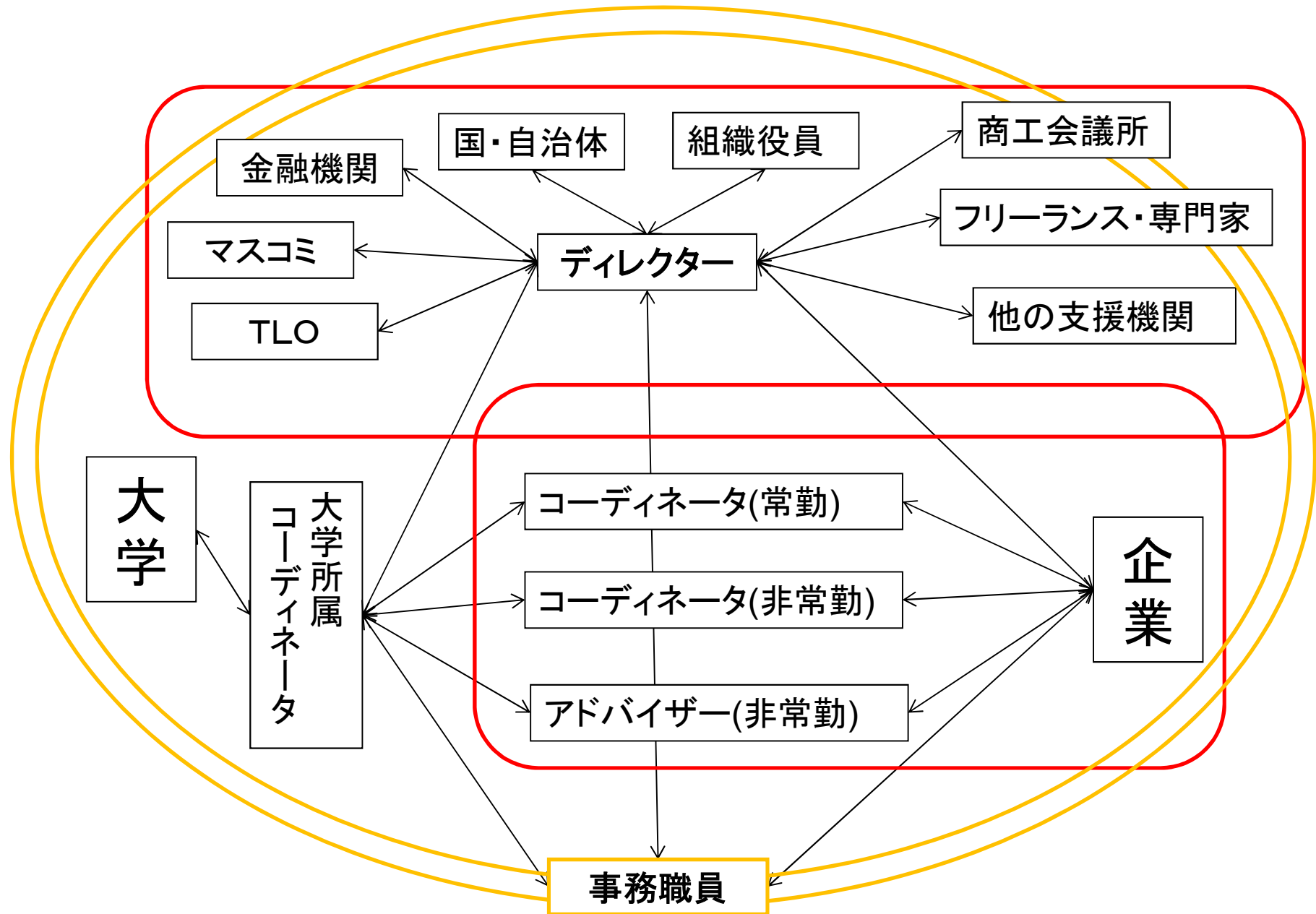


AREC(浅间リサーチエクステンションセンター) 3つの特徴

- ① レンタルラボ+インキュベーションルーム (計18室) 入居率約90~100%
 - ・2002年に信大繊維学部内に上田市(当時人口12万人)が設置
 - ・文部科学省 研究交流促進法 地方自治体整備 全国初
 - ・経済産業省 新産業創出基盤施設整備費補助金 3例目
- ② AREC会員企業(年会費5万円) (毎年企業の評価を受ける)
 - ・36社(2000年)→180社(2012年) (+ 全国の繊維産地関連団体15社)
- ③ 少 事務スタッフ(常駐4人)・低 予算・並 事業 → 自助独立
 - ・開設以来、設置主体(上田市)からの補助金・人的派遣なし
 - ・数値目標 / 支援企業の売上増30億円 (20% 税込還元)
30億円 × 0.2 = 6億円 (= 設置費)

主な受賞歴 (→ 受賞は、単に信州上田から全国への情報発信の手段)

- ・JANBO Awards 2004 新事業創出機関賞(AREC)、新事業創出支援賞(個人)
- ・中小企業組織活動懸賞レポート本賞(2004年度)(個人)
- ・JAPAN Venture Awards2007 地域貢献賞(AREC)
- ・第3回ものづくり連携大賞 特別賞(AREC)
- ・優秀地域力連携拠点 関東経済産業局長賞(AREC)
- ・第1回イノベーションコーディネータ大賞・文部科学大臣賞(個人)



地域における産学官連携について

ディレクターの役割

- ① 継続させる、スリム化、資金集め(会費、入居費)
- ② コーディネータ、アドバイザーが最短距離で動けるように。
- ③ 地域フィールドワークに勤しむ
- ④ 支援機関力の向上(情報管理、顧客管理、ニーズ把握)
- ⑤ 戦術、戦略ではなく、戦場選び

「イノベーション」を導くディレクターの5か条(私見)

- ① 情熱≡執念がある ゼロを1にする
- ② 長期間携わる、携われるようにする(人脈+信頼=現場力)
- ③ プロデューサー資質がある
(企画+情勢分析+実行+広報+資金集め=仕掛力)
- ④ つぶされない根性(理念構築+覚悟=突破力・スルー力)
- ⑤ 防波堤となってくれる お目付け役 の存在

社会で活躍する博士号取得者

財団法人上田繊維科学振興会の理事兼AREC¹事務局長の岡田基幸さん（専門分野：高分子化学）は、工学博士号取得という経歴を活かして、産学官連携コーディネータとして活躍中。科学技術振興機構が平成21年度に創設した「イノベーションコーディネータ表彰」で、第1回イノベーションコーディネータ大賞・文部科学大臣賞を受賞した。受賞理由は、「長野地域における産学官連携支援施設『AREC』を立上げ、産学官のネットワークを構築。ここを拠点として多くの事業化を推進し、若手コーディネータの模範となる抜きん出たリーダーシップを発揮した」というもの。上田市役所職員の経験を持つ岡田さんは、「工学博士の知識は、市役所職員の通常の仕事には直接関係ないかも知れないが、大学と企業・行政をつなぐコーディネータの仕事には有意義なもの」と語る。